



Botswana Medical Information



2019年9月

【2019年9月報道記事抜粋】

● 下痢症に注意

保健省は、9月から11月は下痢症のシーズンであるため、以下のように注意を喚起した。感染性腸炎は、汚染した食品や水、不衛生な状態（手洗いなどを怠るような状況）でひとからひとへ感染します。

特に小さな子供は、ひどい下痢症により生命に危険を及ぼすほどの脱水状態となることもあります。

以下の点を注意してください。

- ・安全な飲料水を利用してください。
- ・トイレの後や、食品を扱う前後、子供へ食事を与える前後には、せっけんによる手洗いを励行してください。
- ・食品にしっかり熱をとおしてください。
- ・ハエが食品に接触しないように覆ってください。
- ・飲料水も覆ってください。
- ・地下水や川からの水を飲水として使用する場合は、沸騰させて使用してください。
- ・人間の排泄物を含め、ゴミは正しく廃棄してください。
- ・乳児は母乳栄養としてください。
- ・ボツワナの予防接種スケジュールに沿った小児の定期ワクチンを行ってください。
- ・下痢の症状が出現するようなら、遅滞なく医療機関を受診してください。

医療機関では、下痢症に対して必要な対応ができる準備ができています。

更なる情報は、近くの医療機関または、保健省の無料電話：0800 600 740へ連絡してください。

現在下痢症が流行している状況はありません。

(20日ボツワナ政府フェイスブック)

● HIV と NCDs (non communicable diseases)

2013年ボツワナ AIDS インパクトサーベイによると、HIVの感染率は18.5%であり、2008年の17.6%よりやや高い。

新規のHIV感染は、2010年の13000人と比較し、2018年は年間8500人と推測される。

2017年のボツワナ行動生物学サーベイランスによると、セックスワーカーの42.8%がHIVによる感染があり、男性間の性交渉のある人々は14.8%の感染率となる。

最近の問題は、糖尿病、心臓血管系の病気、慢性呼吸器疾患、がんなどのNCDsが増加していることである。NCDsは2016年ボツワナ国民の死因の46%を占め、2014年のリスクファクターサーベイによると、30.6%のボツワナ国民は過体重か肥満であり、18%が喫煙し、20%が運動をせず、95%が必要量の果物や野菜を摂取していない。

(16日デイリーニュース)

●無料HIV治療の政策を外国人居住者も含める

ボツワナ政府は、(ボツワナ国民に加え)当国に居住する外国人に対しても、HIV治療を無料で受けさせる方針へ転換することを発表した。

ボツワナには、推定3万人の外国人がHIVとともに生きているが、治療へアクセスできる人は4分の1以下とされる。多くは治療を受けられないか、医療を受けるため母国へ戻る。ボツワナは世界で3番目にHIV罹患率が高く、15才から49才の成人の5人に1人がHIVとともに生活をしている。2016年には、国民のすべてにHIV治療を無料とし、大変な効果をもたらした。2010年以降、AIDS関連死亡は3分の1に減り、HIVの新規感染は36%減った。

政府の決定に従い、保健省はボツワナに住むすべての人がHIVの治療を受けられるよう、医療機関に治療の許可を与える。

(24日UNAIDSホームページ)